

八女市八女福島 町並み通信

発行日：2025年12月

発行者：八女町並みデザイン研究会

問合せ先：（理事）責任者・北島 力

☎ 090-8413-6128

E-mail bymrt982@ant.bbiq.jp

■【八女市歴史的建築物の保存修理技能講習会ご案内】

◎日時：2026年2月6日（金）13:30～

◎場所：おりなす八女研修棟 2F（八女市本町 602-1）

○参加は無料です。（駐車場は八女市役所へ）

○参加希望者は、1月31日までにEメールで上記の八女町並みデザイン研究会・責任者（北島）へ申してください。

○主催：八女町並みデザイン研究会

○共催：八女市

《プログラム》

時間及び講習内容等	講師
13:30～14:00 2024年度、2025年度の伝建 修理事業について	八女市文化振興課歴史まちづ くり係：伝建担当 高口愛
14:00～15:30 市指定文化財・今里家住宅保存 修理事業の概要と建築基準法の 手続きの協議現況・課題	一社創造遺産機構 担当建築士 平宅 正人
16:00～17:30 2025 年度伝建修理事業の現場 見学 今里家住宅→三浦裕和家→高 橋宏家→西紺屋町三軒長屋	工事中等の物件を廻る

* 今里家住宅とは

* 今里家住宅は、八女福島の匠が粋を凝らした居蔵（いぐら）とよぶ町家建築の一丁目一番地 *

今里家住宅は、八女福島の町家建築の特徴である「居蔵」と呼んでいる白壁土蔵の最古（1838年・天保9の建築）で、「居蔵造の始まり」とされ、最も重要な町家です。

建物の歴史と現状は、江戸末期から明治期に活躍した山形屋・小山田和助（商人）が建設した町家で、昭和初期に提灯の房を製造・卸を営む今里家を買取り、1995年（H7）まで店舗兼住居として使われて、その後は町並み保存活動をするまちづくり団体の町並みイベント時などに活用され、地元で「房屋」の屋号で親しまれてきました。しかし、近年急速に老朽化が進んだため使われなくなっていました。

* いよいよ保存修理事業に着手

現状は、瓦や漆喰壁が落ち、屋根全面にシートをかぶせるなど応急処置をしてきましたが、雨漏りによる白蟻被害や地盤沈下による梁の歪みなどが限界に達していました。奥の離れ座敷についても同様の状況です。

事業実施は、市による保存活用計画書の作成が2024年度に終了し、保存修理工事は1年遅れて、2025年9月に着手しました。

いよいよ長年のこの大きな課題を克服するための取組みで、これまでと違って3年計画で再生修理事業を取組み、総事業費が2億円に迫る大がかりな事業です。

* 保存修理事業を担う体制と活用

新所有者から何とかしてほしいと依頼を受けたNPOまちづくりネット八女が、まちづくり会社（株）NOTE八女と協働で所有者に代わり再生修理活用事業を行います。（「分散型町家ホテル・八女福島商家町」として活用予定です。）

修理事業には、八女市から充実した伝建保存修理事業の補助金がありますが、町家ホテルとして活用するには、特に建物内部の修理・改修にかなりの自己資金が必要です。銀行借入というリスクを背負いながら挑戦していますが、事業を成功させるには融資額の極力低減が必要で、市のふるさと納税の支援を受けています。

再生修理工事は、町家の価値を損なわないように、文化財主任技術者の建築士の監督により実施しています。

（設計：一社・創造遺産機構、施工：株・黒木建設）



・江戸後期から隆盛を極めた八女福島で、居蔵造の始まりとされ、貴重な町家建築である。

↓ 市のサポートで所有者からNPOへ依頼

・NPOは、伝建修理事業を申請し、資金調達を考慮しつつ保存継承のため、2025年に事業着手（3か年）

町家のNPO等による代行リノベ

工期：2025/09～2027/11



通り土間を望む
今里家住宅の保存修理工事



床の間を望む
床組み壁など解体作業中



土壁と基礎石



小屋組み